

# グループホーム 八幡

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		入居者は若い子が来ると大変喜ばれる。今後も保育園・小学生などを積極的に受け入れていけるように、実習生・ボランティア担当職員に受け入れを依頼している。

## グループホーム 八幡

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	毎年、盆踊り会場の設営・撤去に職員が参加するようにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営推進会議で委員の皆様にご自己評価・外部評価をお渡ししている。ホーム入り口に自己評価・外部評価を置いており、訪問者が自由に閲覧できるようにしている。また、職員会議でどのように改善していけばよいかを検討している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	約2ヶ月に1度のペースで委員会を開催しており、そこでホームの日常生活、職員の研修内容などを報告している。そこで出た意見を参考にしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターに運営推進会議のお知らせを入居者と共にお持ちしたり、区役所・市役所に職員の業務上の用事があるときは、誰かしらと一緒に行っていただいている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員が研修を受講し、それを職員会議で報告している。今年6月、実習の様子テレビ取材があり、当ホームでの実習風景が放映された。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、職員会議の際には虐待・身体拘束廃止の勉強会を行なっている。		ボランティアや実習生の受け入れを積極的に受け入れ、少しでも職員の意識を高められるようにする。小さな傷・痣を発見した場合は管理者・リスクマネージャーに報告している。傷の原因を究明し、虐待が見過ごされることがないように注意している。

## グループホーム 八幡

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には十分に時間をとって、契約書や重要事項について誤解がないように十二分に説明をしている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホーム入り口に「ご意見箱」を設置し、年長者の里オンブズマン委員会に意見が伝わるしくみになっている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月初めに入居者のご様子を手紙に記してご家族に送付している。ホームでの暮らしぶりがわかると好評である。その他、生活上変化があれば、居室担当者・ケアマネが中心となって電話報告を行なっている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホーム入り口に「ご意見箱」を設置している。また、面会時の会話の中で意見・苦情を汲み取るようにしている。例・・・「あまり半そでは着せないでほしい。」「クーラーの風が当たらないようにしてほしい」etc・・・。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>1ヶ月に1度のペースで職員会議を開催している。事前に職員向けにアンケートを取り、それに基づいて話し合っている。管理者・リーダーは職員が意見を出しやすい雰囲気を作る。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>季節や入居者の状態に応じて勤務時間の変更を行なっている。入浴の時間・レクの時間などは柔軟に対応している。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>今年度は、グループホームの開設があり、そのホームへの人事異動があった。</p>		

## グループホーム 八幡

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	資格はヘルパー2級以上を必須として、性別・年齢・経験は問わず、介護にやる気のある者を採用している。26歳から61歳までが勤務している。		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	採用時に幹部職員によるオリエンテーションを行なっている。		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	外部の研修に積極的に参加できるように計画している。内部研修は職員全員が出席できるようにしている。		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	同業者の訪問、問い合わせがある。また、入居者と共に他グループホームに遊びに行っている。		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	必要に応じて個人面談を行なっている		

## グループホーム 八幡

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務状況・勤務年数などによって時給のアップをしている。また、パート職員の正職員登用にも力を入れている。勤務状況の素晴らしい者を積極的に正職員に登用していきたい。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回面談時に1時間ほどお話をする。ご家族のほうが不安を抱えられていることが多いので、不安を解消するように努めている。ご本人から聞き出すのはできていない。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人よりご家族のほうが不安なことを抱えられていることが多い。ひとつひとつ丁寧に説明し、不安・不満などがあるときは遠慮なく言える環境を作っている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームは複合施設であるため、その利点を利用できるように対応している。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に何度か足を運んでいただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人がどういう状況に置かれたときに本音を話したり、笑ったりするかを観察している。入居者を「認知症」とは見ずに、一人の人間として見ている。		

## グループホーム 八幡

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	介護上困ったことやアイデアがあれば、ご家族と一緒に考えるようにしている。身の回りに起こったことを話して下さるので、そのような話せる機会を持てているのはいいことなので、続けていきたい。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	言葉にできない感情を組みとる努力をしている。面会の少ない方には無理に面会を要請しないなど、ある程度の距離を置けるようにしている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所が近所なら出かけている。昔の友人が遊びに来られる機会も多いのではないかと。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が援助しなくても馴染みの関係ができていのように思う。お一人で食事ができない方にご飯を食べさせてあげている光景も眼にする。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	数ヶ月に1度は電話をしている。ホームの近況を報告し、近くにお立ち寄りの際は遊びに来てくださいとお話している。入院中の方にはお見舞い、初盆の方にはお参りをなどを続けている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	したいこと、やりたいことを聞き出している。すべてにおいて「本人を尊重」している。		

## グループホーム 八幡

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に一応の生活暦を伺い、入居されてから随時お話の中で、生活暦の把握に努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者の心身状況は日々異なっている。その日そのときの状況に合わせて介護を行なっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3ヶ月ごとにサービス担当者会議を開催。会議時だけでなく、日ごろの会話の中からも意見を引き出せるようにしている。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヶ月ごとの見直しをしている。期間中に入院・退院などがあった場合はそのつどプランの見直しをしている。入院中も看護師や医師と細かく連携をとっている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かな発言や行動などを記事にしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設施設であるため、ホーム職員では落ち着かない場合は他施設の職員に声をかけてもらったり、デイサービスでのレクに参加している。		

## グループホーム 八幡

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居前に利用していたヘルパーが来られたり、ボランティアの方による歌や庭の手入れをお願いしている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域包括センター職員には運営会議で協力を請うている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要があれば運営推進会議の中で相談している。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からたつのおとしごクリニックを主治医としている方がほとんどである。他院にかかりたい場合は紹介してもらっている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医は認知症の専門医である。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	提携先の看護師は入居者の状態を把握できている。		



## グループホーム 八幡

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>管理者・リーダー職員が病院に足を運び、そこでの情報を看護師・医師に報告している。そして早期に受け入れられるように体勢を整えている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>家族・医師とどこまでグループホームでの介護が可能かを話しあわなければならない。看取りの指針に従って、医師・看護師らとも話し合っていく。</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>家族・医師と本人の状況を見極め、ホームで長く暮らせるように援助している。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>ホームでの生活状況は転居先に十分に伝えている。しかし、ほとんどの場合が体調の悪化による入院であるため、ホームでの生活を継続するのは難しい。</p>		
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>マナーアップ研修は全員が受講している。個人情報保護については今年度よりより一層の強化をしている。</p>		

## グループホーム 八幡

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	何か説明をするときは一つ終わって、次の説明をするなど、いっぺんに説明はしないようにしている。何でも納得できてから行動できるようにしている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく、入居者本位で業務を行なうようにしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	一部の方は本人の望まれる美容院に出かけている。衣替えは職員と入居者が一緒に行なっている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳・片付けなどは入居者と職員が行なっている。できる方にはやっていただき、できない方にも台拭きなどをお願いしている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員と買いものに行ったり、ご家族に持ってきていただいている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握しており、時間通りの誘導ではなく、排泄のサインを見逃さないようにしている。		

## グループホーム 八幡

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間を9時から19時に設定している。毎日入られる方もいれば、2日に1回の方もいるなど柔軟な対応をしている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その方の疲れたサインなどを把握しており、ソファや居室で休めるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外出を好まれる方が多いので、ドライブや外出できる機会を持つようにしている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いを持たれている方が4人おられる。一緒に買い物に出かけている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は外に出て、雨の日も園内を散歩するなどして、ホーム内だけに止まらないようにしている。		外部と接触できる機会を多くするようにしていく。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外部の「介護付きヘルパー」を利用している方がいる。		集団での遠出は無理なので、個別に遠出できるように援助していきたい。「介護付き旅行」ではなく、「旅行付き介護(グループホーム)」ができるホームを目指したい。

## グループホーム 八幡

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される場合は居室の電話やホームの電話、公衆電話から電話をできるように援助している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	友人やご家族の面会は頻繁にある。長時間滞在される方が多いので居心地がいいのであろう。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1ヶ月に1度の職員会議で勉強会を行なっている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は全くかけていない。夜間のみ防犯のために施錠している。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室で過ごされている方で危険を伴いそうな方は許可を得てドアを開放したり、職員と一緒に過ごしている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険そうな物を一切排除してしまうと生活観がなくなるので、お一人お一人の能力を見極めて、物を置くようにしている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	小さな事故「ヒヤリハット」を報告し、職員全員で共有している。		

## グループホーム 八幡

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当は全員ができる。2ヶ月に1度、救急時の対応をシミュレーションしている。		新人職員も緊急時に対応できるようにしておく。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災意識は常に頭に入れている。消防訓練は年に3回行なっている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ベッドで転倒の多い方は布団に変更したり、家族と話あって、抑制のない生活を心がけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常時、入居者の変化には敏感になっている。異変があればすぐに医師・看護師に報告している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解している。職員全員が入居者の「お薬」を把握している。副作用なども把握している。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	緩下剤はなるべく使用しないようにしている。バナナを食べて出やすい方はバナナを、牛乳がいい方は牛乳を飲んでいく。		

## グループホーム 八幡

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	お一人で口腔ケアをされている方も職員が口腔内をチェックしている。頬に残渣物が溜まり易い方はガーゼなどで取り除いている。		「歯磨き」ではなく、「口腔ケア」をいう意識を徹底する。
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	皆さん尿量が非常に多い。一日を通じて1500cc以上の水分が確保できている。食事中にお菓子をお出しするの一般的にはおかしいかもしれないが、食欲の無い方は、ご飯 お菓子 ご飯 お茶という風に、食事や水分が確保できるように工夫している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎年、インフルエンザの予防接種は職員・入居者全員が行なっている。手洗いうがいを基本として、温度・湿度の調整や、靴や身の回りを清潔にするなど、感染予防に努めている。マニュアルを活用し、予防・対策に努めている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	講習会に職員が参加して、その内容が全職員に伝わるようにしている。週に一度、キッチン回りの消毒・食器の漂白を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホーム入り口には花を飾ったり、水墨画を飾るなどして、雰囲気の良い工夫をしている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気になるように工夫しており、使いやすく、寛げる雰囲気を作っている。		

グループホーム 八幡

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員が気配りをしなくても、それぞれが楽しそうに思い思いに過ごされている。眠そうにされたり、きつそうにされたりを気づけるようにしている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家庭で使用されていたタンスや置物などを多く持ち込んでいただくようにしている。極力、新調していただくのは避けていただいている。危険物以外は持込を認めている。今後もそれを継続していきたい。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	入居者は冷暖房の風や温度に敏感なため、間欠的に空調を使用している。しかし、設間にあるが、夏場は外気温との差が激しくなる。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内に手すりはないが、タンスの置き位置などを工夫して手すり代わりにしている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	失敗は絶対責めずに、さりげなくフォローしている。できることはやっていただけるようにし、できないことは無理にさせていない。できることとできないことの見極めを行っている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには花や野菜を飼育している。一緒にきゅうりをちぎったり、トマトを採集している。水遣りも一緒に行なっている。		

グループホーム 八幡

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



## グループホーム 八幡

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

### 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご利用者の希望を満たせるように外部委託の「介護付き旅行」を行なっている。現在のご利用は1名だが、徐々に利用人数を増やしていければいいと思っている。広島への日帰り旅行を2回行った。散髪は施設に床屋の出張サービスが利用できるが、髪形が一律になる可能性があるため、近所の理容室に出かけたり、小倉の美容院まで行っている。近所の個人経営のお店に行くことで地域密着の一環になると考えている。ボランティアの受け入れも年々徐々に増えている。ご家族によるフルート演奏会や、職員の知り合いによるギター演奏会など、ボランティアの受け入れも柔軟になってきた。また、レクリエーションではご家族同伴の催し物を企画し、公園にて弁当を食べたり、外食に出かけられるようにしている。入浴の時間は基本的に午前中に設定しているが、天気や入居者の都合に合わせて午後に行なったり流動的に対応している。